

マウントあさま室内合奏団 演奏会 出演者

指揮——横島 勝人

マウントあさま室内合奏団

ツェイトリン	寺田 みどり	熊巳 まどか	平 ひとみ	フルート	ホーン
藤崎 真澄	重原 剛	神馬 純江	栗田 道夫	長田 恵美子	郷田 茂幸
(シンセサイザー)	中島 智美	杉林 隆子	藤村 智恵子	結木 美実	原田 一希
青沼 裕子	野毛 由文	村主 尚子	室野 拓	オーボエ	吉田 満
石川 貴隆	樋口 澄子	高橋 恵子	コトラーパス	トランペット	
市野 麗	堀江 里佳	田辺 寿子	真 佐藤 誠	荒田 豊	
大島 居 昌美	前島 景子	別所 ひさみ	原 修明	佐藤 淳	
岸本 恵美子	宮田 さみ子	タエロ	平澤 一夫	クラリネット	ティンパニー
椎名 美江	武者 弘子	伊東 時子	松田 毅之	北島 剛史	
清水 あゆみ	安間 尚子	大見 繁和	滝田 健一	斉藤 英之	野原 寛文
笠原 真紀	ツェイトリン	坂井 登紀子	佐藤 一実	フエゴット	
鈴木 美代子	高橋 あさ子	入内島 一貴	渋谷 英子	堀山 由美	
田子 千香	川本 いほ子	白井 一也	堀山 由美	那須 雅之	
多田 廣之	木村 厚子	神馬 高彦			

マウントあさま室内合奏団



2000年秋から信州国府宮村で始まったアマチュア弦楽奏者会のための音楽会ミナー、このとき結成されたのが「マウントあさま室内合奏団」です。2000年8月の第1回音楽会ミナーは横島勝人氏も講師兼指揮者に迎え8月21日～23日まで3日間行われ、3日目に「マウントあさま室内合奏団」としてコンサートを開催し成果を発表しました。このときはモーツァルトを取り上げ、深く掘り下げながら3日間楽しく過ごしました。その後毎年秋に取り上げる作曲家を替えながら横島氏の指導のもと金曜日の午後18時から「マウントあさま室内合奏団」を結成し、土曜日の夜までレクチャーと練習を行い、日曜日に仕上げのコンサートをする形式で音楽会ミナーを実施してきました。2004年第5回から音楽会を入れ弦楽合奏からオーケストラに拡大しています。参加者も第1回から第4回までの弦楽合奏の時は15名前後であったものが第5回のオーケストラになってからは30名以上と増え、2006年第7回では50名を超えています。以降今年(2011年)の第11回まで毎年コンサートを開催しており、今後も続けて実施予定です。

メンバー募集

「第12回ワークショップ」のメンバーを若干名募集します。

予 定	2012年9月15・16日	横島勝人氏によるレクチャーと練習
	9月 17日	軽井沢大賀ホールでコンサート
演奏曲目	ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」	

お問い合わせ先 (担当：平澤) e-mail hirasawa@mail.hinocatv.ne.jp ファクス 042-591-7518

Mt. Asama Chamber Orchestra
Katsuo Yokoshima, Music Director

マウントあさま室内合奏団 演奏会

2011年9月19日(月・祝)

開場 13:30 開演 14:00

会場 軽井沢大賀ホール

指揮 横島勝人

演奏 マウントあさま室内合奏団

The 11th Musica Workshop 9 | 19 2011 MONDAY

The 11th Musica Workshop (Date: September 17 - September 19, 2011)

Mt. Asama Chamber Orchestra
Katsuo Yokoshima, Music Director

Musica Workshop

アマチュアの楽器奏者の方で、仲間と音楽を楽しみながら勉強もしたいと思って居られる方を対象に3日間の合宿形式で練習を行います。2日間で練習できるまでに仕上げて3日目にミニコンサートで成果を発表します。

MESSAGE

ご挨拶

2000年8月にスタートしたMusica Workshopも回を重ね、今年で第11回を迎えることができました。最初には20名の弦楽隊でスタートしたMusica Workshop時に構成される「マウントあさま音楽会」も横島先生のご指導のもと60名を超えるメンバーの管弦楽団にまで成長しました。ここまで来られたのもとえに応援をいただいた皆様のおかげと感謝しております。この間「マウントあさま音楽会」はMusica Workshop時以外にも2007年3月に台湾南投市で、2008年4月にウィーン、同年9月に高知で公演を行いました。また2008年9月高知公演でのベートーヴェン第9を皮切りにしたベートーヴェン交響曲の演奏も、今回の第7番、第8番でひと区切りとなります。今後も他作曲家の曲をとりあげて研鑽を積み充実した演奏をするよう頑張りますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

Musica Workshop事務局 平澤 一夫

講師・指揮 横島 勝人 Katsuo YOKOSHIMA



大抵生まれ、9歳よりピアノを始め、大塚音楽大学で、ハーガー、P.シュヴァルツ、湯浅勇治の各氏に師事。

90年ウィーン・マスタークラス指揮セミナー、96年ハンガリー国立立交響楽団主催セミナーで、ムカルマー、E.アッツェル各氏に師事。98年キリル・コダリン国際指揮者コンクールベスト、99年ウィーン音楽協会ホールで、トーン・キム・ス・ラウ・ベートーヴェン交響曲第9番を指揮。2001年、ウィーン郊外アイゼンシュタットで、ハイドン「天地創造」を指揮。03年ブラハ「放送交響曲」を指揮、好評を得ず。00年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトにおいてアシスタント及び合唱指揮。05年7月ドイツ・ライプツィヒでのチャリティ・コンサートに出演。バハ「口説きミサ」を指揮。06年9月、10月、ウィーンとプラハでモーツァルト生誕250年「レクイエム・ガラ」特別演奏会を指揮。08年3月、長野県松本市においてモーツァルトの交響曲全52曲を10年かけて演奏する「モーツァルト交響曲・全曲演奏会」芸術監督に就任。松本モーツァルト・オーケストラの指揮者を務める。09年2月には、紀尾井シンフォニエッタ東京第68回定期演奏会にてメンデルスゾーン・エリヤの合唱指揮を務めた。(合唱：東京オペラシンガーズ) 09年10月、国境なき合唱団ベルリン公演でベルリン・シンフォニエッタを指揮。(第9)を演奏。

〔これまでに指揮したオーケストラ〕
・ハンガリー国立セグド交響楽団・マフパダベスト交響楽団・オランダ放送管弦楽団・新日本フィルハーモニー交響楽団・東京シティアールハーモニック管弦楽団・大阪センチュリー交響楽団・岡山フィルハーモニック管弦楽団・広島交響楽団・関西フィルハーモニー管弦楽団・京都市交響楽団・奈良フィルハーモニー管弦楽団・東京交響管弦楽団・大賀市音楽団 他

PROGRAM

ベートーヴェン作曲

交響曲第8番
へ長調 作品93

- 第1楽章 Allegro vivace e con brio
第2楽章 Allegretto scherzando
第3楽章 Tempo di Menuetto
第4楽章 Allegro vivace

Program Note

ベートーヴェンが42歳のときに完成したこの曲は9曲の交響曲の中では規模が最も小さなものであり、演奏する頻度も少ない曲であるが、ベートーヴェン自身が最も満足していた作品である。それは多分この曲を作った当時の思い出につながるものかもしれない。

ベートーヴェンは1812年、第7番を完成した直後の7月から連年のある連年旅行でドイツに出かけた。ここで「不滅の愛人」に目されているアマリア・ゼイバルがに合っている。ゼイバルと合ったこのころはベートーヴェンにとって極めて幸福な一時期であったことは確かである。そして第7番の作曲当時から進んでいた新しい交響曲を、彼としては珍しく短い期間で一気に書き上げた。この第8番は、好評で再演を重ねる第7番の第4回目の演奏会時に初演されたが、第7番の華麗な響きに隠れ特に注目を集めず、ベートーヴェンも満足したが、批評は決して高くなかった。

第8番は軽やかな楽章を持っていない。しかもベートーヴェン的な新しい曲想もなく、全体が簡潔でむしろ典雅な味わいさえもある。曲そのものは30分にも満たないものであるが、内容的には決して単純ではなくその簡潔な構成ゆえにベートーヴェンの最高傑作とする人も少なくない。特に第4楽章は見事に構成されていて、この楽章のために他の3つの楽章を書いたのではないかと思うほど素晴らしい終曲となっている。

intermission

ベートーヴェン作曲

交響曲第7番
イ長調 作品92

- 第1楽章 Poco sostenuto - Vivace
第2楽章 Allegretto
第3楽章 Presto - Assai meno Presto
第4楽章 Allegro con brio

Program Note

ワーグナーが「舞踏の賛歌」と評したこの第7番はベートーヴェンの9曲の交響曲の中でも、大変に情熱的な曲である。曲全体を一貫してリズムが鋭い生氣を放ってこの曲を見事にまとめている。

ベートーヴェンは交響曲第5番、第6番を作った後、名実ともにウィーンを代表する大作曲家として多忙な生活を送っていた。しかしこの時代にはナポレオンがヨーロッパ全土を掌握し、1805年にはウィーンはフランス軍によって占領されるなど困難を極めていたと云われる。ベートーヴェンはそうした苦難を乗り越え、ウィーンに留まり、ピアノ・音楽曲第5番と協奏曲第5番を始める多くの傑作を書き続けた。この第7番もそうした時期におけるベートーヴェンのたぐいまれい「力」が、自信をもって表出されたものといえる。

第7番は完成の翌年1813年4月20日に彼のより指揮者であったルドルフ大公の邸でベートーヴェン自身の指揮で演奏されたが、熱狂的に迎えられ第2楽章はアンコールされたほどであった。この後もしばしば演奏が重ねられた。

この曲が好評であった理由は、何よりも生命力にあふれた曲想と連発の交響曲のスタイルを踏襲しての明確な姿がわかりやすく、当時の聴衆に受け入れられたのではないと思われる。

特に第2楽章は「不滅のアレグレット」として有名な楽章。短調の哀愁味を持つ美しい楽章。ここでもリズムが主役である。その上に美しい旋律が繰り返られていく。

SYMPHONY

NO. 7 & 8

Ludwig van Beethoven

Mt. Asama Chamber Orchestra
Katsuo Yokoshima, Music Director

都会の雑踏と日常の生活を離れ、ひっそり静かに時間が流れる秋の軽井沢で、
ベートーヴェン・シンフォニーの魅力を感じてみることにしましょう。

ベートーヴェン作曲

交響曲第7番 イ長調 作品92

交響曲第8番 へ長調 作品93